

大学等名：追手門学院大学
テーマ：テーマⅢ（入試改革）

大学で学ぶ意味を考え、学ぶ意欲と姿勢を持った受験生に入学を許可することを目的とし、受験前から「学ぶことについて考える」及び「アイデンティティの形成」の機会となるアサーティブプログラムとその成果を発揮できるアサーティブ入試を開発。

アサーティブとは

本学では、相手の意見に耳を傾けながら、自分の意見や考えを主張することができる態度、自分を知り表現することが大切になるとい意味で使っています。

背景

大学全入時代

入試方法の多様化等により入学者の在り方も変容しており、学習意欲の低下や目的意識の希薄化などが顕著
(中央教育審議会 学士課程教育の構築に向けて 平成20年12月24日)

文教政策

大学入学者選抜は、本来、高等学校教育を基盤として、各大学のアドミッションポリシーの下、能力・意欲・適性を見極め、大学での教育に円滑につなげていくことを求める
(教育再生実行会議 第四次提言 平成25年10月31日)

事業による効果（期待する入学予定者像）

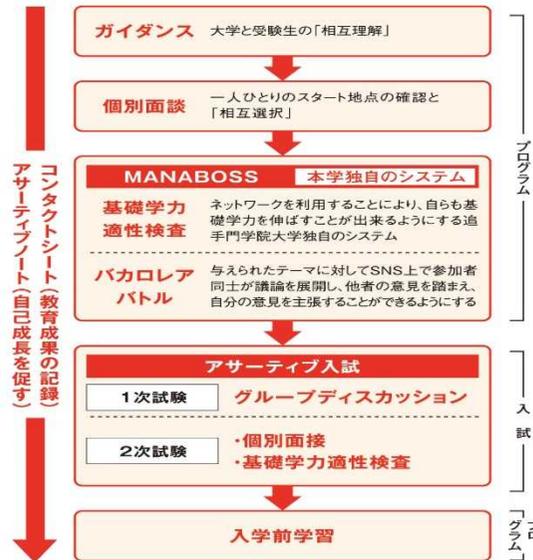
シラバスの活用ができる

講義への参加意欲の向上

各種活動への積極的な参加

などができる新入生の増加

アサーティブプログラム・アサーティブ入試の流れ



アサーティブプログラムの特徴

1 本学職員との「個別面談」

将来の自分を意識させ、大学で何を学ぶかを問い、大学で学ぶ意味を自ら気づくように促し、学ぶ意欲を引き出すことができるようにする。

2 独自開発システム「MANABOSS(マナボス)」

【MANABOSS導入の目的】

- ①基礎学力の確認と弱点の発見から計画的学習への動機づけができる。
- ②論理的思考や批判的思考を始めとして、物事を多様な観点から考察する能力を育成する。
- ③ポートフォリオで成長の記録を振り返ることができ、入学後の学生ポートフォリオにつなげることができる。



基礎学力適性検査

高等学校段階の学力を客観的に把握・活用ができるように「言語能力問題」と「非言語能力問題」を準備。「達成度」から自らの基礎学力の状態を把握し、計画的に学ぶ姿勢を養うことができる。

パカコレアバトル

大学において、「答えのない問題」を発見し、解決するために必要な専門的知識と汎用的能力を鍛えるための準備として、与えられた課題にたいしてじっくり考えることを養い、SNS上で議論を展開することができる。

3 自己成長を促す「アサーティブノート」

自らのことを理解し、大きな視野で周りの状況を見極め、自分で考えたことを、相手にしっかりと伝える準備ができるノートである。このことにより、アイデンティティの形成と自己成長を促すことになる。

【事業の成果】

	26年度	28年度 (目標値)	30年度 (目標値)
アサーティブガイダンス参加者数	300人	900人	1,250人
アサーティブ入試入学者の割合	3.9%	23.7%	32.9%
アサーティブ面談担当職員の割合	26%	61%	82%

・主体的に学ぶ姿勢とアサーティブな態度を身に付けた入学者が増えることにより、本学の教育目標である「生きる力」「学ぶ力」「考える力」を備えた人材養成（「追大学士力」）を実現できる道になる。

・職員が関わることにより、学生実態を的確に把握し、教育改革への具体的な政策提起ができる力量と、個々の学生に対する教育支援ができる力を育成することで、教職協働による教育が実現可能となる。